

十一 播磨の国 垂水

「垂水」の地は旧播磨の国の東端にあり、江戸時代には陸海の交通路の中継点にもなりました。東播磨の平野部から六甲山地へと移り変わる地形から、高さ約三十メートルの断崖が海に接し、多くの滝が海にかかっています。このような情景から、「水の滴るところ」「滝のあるところ」という意味をもつ「垂水」の地名がついたといわれています。

西国街道を行く旅人たちは、瀬戸内海を望む街道沿いの茶屋に立ち寄ってこの滝の水でのどを潤して旅の疲れをいやし、明石海峡を渡る船は飲料水を補給したといわれています。この滝は昭和のはじめにも四つ存在しており、現在でも、山陽電鉄「滝の茶屋」駅付近にその名残をとどめています。また、垂水には古代からの遺跡も点在しています。特に、「五色塚古墳」は県下最大の前方後円墳であり、明石海峡の海上交通を牛耳る豪族の墓と考えられています。神功皇后にまつわる伝説も伝えられています。



現在の山陽電車、滝の茶屋駅付近(明治中期、神戸市立博物館蔵)

主な見どころ

瑞丘八幡神社
みずおかはちまんじんじや
はーい
厄神さん。古来、垂水の八幡宮として崇められてきた。1月18、20日に厄除大祭、5月25日に夏祭、10月11日に例祭がある。

遊女塚
ゆめうぶづか
3-1-1
垂水沖で溺死した遊女の供養塔と伝えられている。もともと西国街道に沿った丘の上に建てられていたが、明治21年(1888)の鉄道開通に伴い現在地に移された。この塔は宝篋印塔(ほうきょういんとう)という形で、峠や村境などに建てられ人々の安全を守ってくれると信じられていた。皇指指定重要文化財。

皇大神社
こうたいじんじや
3-1-3
大神宮さん。祭神は天照大神。古くより播磨国東垂水村の鎮守としてまつられてきた。例祭の6月1日には子供たちが書いた奉納行燈がかけられる。

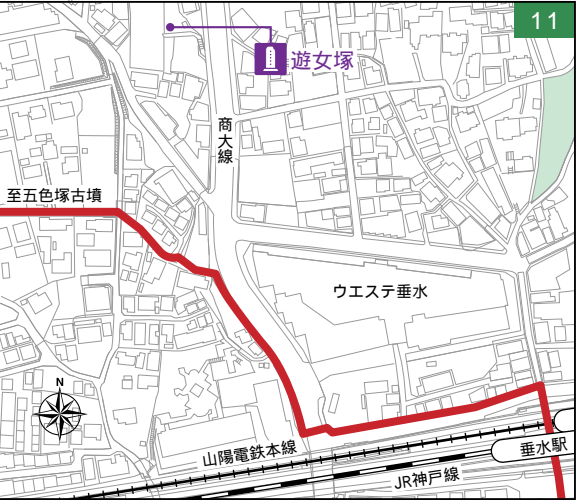
海神社
うみじんじや
3-1-3
「かいじんじや」と呼ばれ、漁業繁栄、交通安全の神などとして親しまれている。鎮座の由来は神功皇后伝説によるもの。7月10、12日に夏祭(11日は花火大会)、10月10、12日に秋祭、12日の海上渡御祭(祭)がある。

小壺古墳
こひつこぶら
1-1-1
直径67m、高さ約9mの円墳。埴輪の形などから五色塚古墳とほぼ同じ。5世紀はじめに築造されたと推定されている。

五色塚古墳
ごしきづか
1-1-1
全長104m、後部の高さ118mの前方後円墳。4世紀末から5世紀にかけて築造された。昭和40年(1965)より文化庁と神戸市で10年かけて築造当時の姿に復元整備している。9時〜17時無料。月曜定休(祝日営業翌日休み)

平磯海づり公園
ひらいそ
1-4-4
はるか紀伊半島を望め、釣り場の延長は1400mある。6時〜21時(時期により異なるため要確認)。火曜定休(078)5333073

マリンピア神戸
1-1-3
ポルトガゼール
レストランやマーケットがある。10時〜22時30分(水曜不定休)(078)709-4400
さかなの学校
塩づくりや海苔づくりなどを体験できる。10時〜17時。水曜定休(祝日営業翌日休み)。無料。(078)700-5550



五色塚古墳(舞子タワーより)



遊女塚

